

令和7年度自己点検・評価の概要

(自己点検・評価報告会スライド資料)

令和8年2月27日



SHIGA UNIVERSITY

滋賀大学

- **地域中核・特色ある研究大学施設整備事業**
 - イニシアティブ棟の活用、最先端研究+アート
- **高度情報専門人材育成機能強化事業**
 - データサイエンス(DS)研究科博士前期課程定員を80名に拡大
 - データサイエンスみらい創造館の建設
- **デジタルと掛けるダブルメジャー大学院構築事業**
 - 経営分析学専攻：2年目も定員を上回る入学生。1期生6名の修了。
 - 教育データサイエンス人材育成プログラム：1期生7名の修了
- **地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業**
- **人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業**
- **生成AIの本格導入(「AIネイティブ大学」)**
 - ChatGPT Edu を日本初で導入

- **大学独自の目標：データサイエンス・AIの社会実装の推進**
- **データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター**
- **国内最大規模の研究教育拠点**
 - 現在50名以上の専任教員
 - そのうち4割近くは外部資金による採用
 - 管理機能の強化：URAによる支援体制の確立
 - 研究の高度化：学術論文や特許でも成果
 - 先端因果推論特別研究チームの設置

- **社会人のリスキリング**
 - データサイエンス研究科およびMBANへの企業派遣
 - 文部科学省「リカレント教育エコシステム構築支援事業」に採択
 - 滋賀リカレント教育コアリション（SREC）を設置
 - 多くの社会人受講生が受講
 - 未来創生人財育成講座
 - 第2期と第3期を開催。経済学系の教員が講師。
- **地方創生**
 - CDO-IQ Japanの開催
 - 観光庁や多くの企業の支援のもと、450名以上の参加者
 - 大学発ベンチャーの活躍

- **生成AIの全学的な導入**
 - 全学共通教養科目「生成AIによるデータ分析（仮）」を開講
- **全学的な学部のデータサイエンス教育の体系化**
 - 数理・データサイエンス・AI教育プログラム修了生を順調に輩出
- **リベラルアーツ教育**
 - リベラルアーツ・STEAM教育研究センター
 - 「リベラルアーツ総合探究Ⅰ、Ⅱ」の充実
- **国際交流：「国際戦略」の策定へ**
- **学生へのサポート**
 - 食の支援事業
 - KINTOみらいファンド賞

- **データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター**
 - 研究の高度化。個別課題の共同研究から企業全体のDX支援へ。
- **研究環境等改善費**
 - 競争的研究費の直接経費から研究代表者等の人件費を支出
 - 民間等との共同研究にもこの制度を適用
- **学内の研究助成制度**
 - 「特別重点研究」： 先端因果推論特別研究チーム
 - 「特別研究推進助成事業」： 4事業を採択
- **コンプライアンス：研究不正や研究費の不正使用防止**

- **ネーミングライツ事業の開始**
- **経営改革室の設置**
- **生成AIも活用した業務DXの推進**
- **教育学部150周年**
- **附属学校園の改組の具体化**

○ 未来創生リベラルアーツプログラム

- ・「リベラルアーツ総合探究Ⅰ」1科目；分野横断型コラボ授業
- ・「リベラルアーツ総合探究Ⅱ」3科目；PBL型グループワーク授業
- ・初の修了者に修了証の授与とデジタルバッジの付与



未来創生リベラルアーツプログラム認定証授与式

○ 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度

- ・全学部で順調に修了生を輩出
- ・モデルカリキュラムに追加された学習項目「生成AIの基礎と展望」に対応した科目を各学部で開講

○ 教育改革の取組み

- ・学生生活実態調査にて
実践型授業（アクティブ・ラーニングやPBL）の効果を実感
「課題解決能力、コミュニケーション能力、創造力等」
オンライン授業受講生から7割以上の肯定的評価
- ・教育実践優秀賞（恒川雅典教授，後藤良介准教授，堀兼大朗講師）
- ・リベラルアーツ・STEAMプロジェクト認定・助成制度
認定のうち1件は大阪・関西万博「Robot Friendly Project」に参加



Robot Friendly Project トークショーとブース運営

○ChatGPT Education版の導入

- ・全国の大学に先駆けて導入
- ・DSを学ぶ院生と指導教員を中心にライセンスを配分
- ・利用状況と意識を探るアンケート調査を継続実施
- ・滋賀大学ChatGPT Edu 利用指針
- ・滋賀大学ChatGPT Edu運用管理要綱
- ・ChatGPT Edu版活用報告会を2度開催
- ・学内ハッカソン（計画中）



OpenAI Education Forum Tokyo
にて竹村学長が導入の紹介



他大学から多くの問い合わせが
-例；名古屋工業大学との意見交換会-

○デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業

- ・経営分析学専攻（MBAN）6名と
教育学研究科「教育データサイエンス人材育成プログラム」7名が
今年度末に修了予定

★ 課題

- ・未来創生リベラルアーツプログラム認定者の増加を図る
- ・教育改革のための予算確保と多様な企画の実施
- ・AIネイティブ大学に向けて多様な生成AIの利活用をさらに推進



ChatGPT Educationにて作成

○学生の自主的活動をエンカレッジ

- ・学長賞：澤木聖子ゼミCチーム、古本雄士さん
- ・学生自主企画プロジェクト：6件中4件採択
- ・KINTOみらいファンド賞：36件中14件採択

○学生生活実態調査

- ・「令和6年度学生生活実態調査結果を受けて（学生の皆さんへ）」を昨年よりボリュームアップして公表

○次年度から障がい学生支援室の名称変更と拡充を決定

○特記事項

- ・「食の支援事業」全サイズ10円で1万杯を提供
- ・「わたSHIGA輝く国スポ大会」に学生が参加

★ 課題

- ・自主的な課外活動を支援して、社会課題の発見・解決力及び未来社会の構想力を養う
- ・ダイバーシティ&インクルージョンの取り組みをさらに推進する



学長賞授与式



KINTOみらいファンド賞授賞式



大慶りや特大的「10円ライス」をほおばる滋賀大学の学生～2025年10月16日午後0時13分、滋賀県彦根市、小西良昭撮影

10円ライス



国スポ2025ローイング競技出場者

○ 情報基盤関係（1）

- ・（彦根）データサイエンスみらい創造館（旧大合併講義室）新営工事
建物内の有線LANおよび無線LANのネットワーク設備の導入検討
- ・（石山）総合研究棟改修 I（人文社会教育系）
第 I 期改修工事に伴う既設ネットワーク設備の保護等の実施／工事完了後、3月中に再設置を予定

○ 情報基盤関係（2）

- ・生成AI環境の導入支援
ChatGPT Eduの導入支援、国産AIのPlaMo Chatの導入検討

○ 情報セキュリティ関係

- ・サイバーセキュリティ対策基本計画（令和7～9年度）の実施
- ・情報セキュリティ等の教育と訓練
- ・インシデント発生に対する訓練

★ 情報部門における課題

- ・国産AIを含む多様な生成AIを最適に活用するための環境整備
- ・情報セキュリティに関する意識とリテラシーの向上、情報セキュリティ対策人材の確保

不正アクセスの疑いがあったらすぐ通報を！

- ・不正アクセスを100%防ぐことはできない
- ・被害の拡大を防ぐために迅速な対応が肝心
- ・調査にはご協力頂くが、何かペナルティがある訳ではない

- 本学でインシデント発生が疑われる場合の通報先:
- CSIRT（滋賀大学情報セキュリティインシデント対応チーム）
<csirt@shiga-u.ac.jp>
担当：図書情報課総務係（情報担当）、情報基盤センター
 - 図書情報課総務係（情報担当）（内線228）
 - 情報基盤センター（彦根内線360、大津内線301）

情報セキュリティ研修会

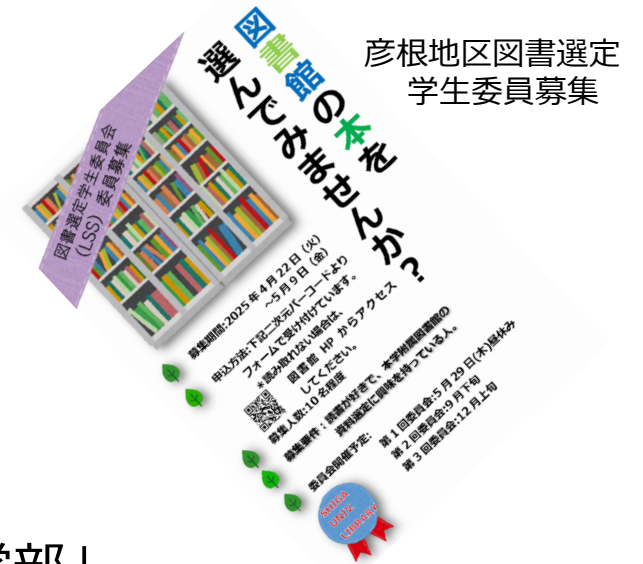
- 学術論文等のオープンアクセス（OA）化推進を支援
 - ・教員情報管理システムと機関リポジトリ連携業務を開始してHPで周知
 - ・Wiley社と令和8年1月よりRead & Publish 契約を締結

- 学習環境の整備・支援
 - ・学生参加の図書選定として書店で図書を選定する「選書ツアー」を実施
 - ・各種の図書展示企画
 - ベルギー出身の学者ケトレに関する本館所蔵の貴重書の展示
 - 「明治期の教育を教科書から見る」「図書館蔵書で振り返る滋賀大学教育学部」
 - 図書館員企画展「図書館を使いこなそう」「レポート・論文に役立つ本」「教育実習に役立つ本」等

- 独自財源の確保
 - ・一般基金、滋賀応援寄附（ふるさと納税）、古本募金
 - ・ネーミングライツ導入に向けた準備（情報収集と対象箇所洗い出し）

★ 課題

- ・図書館の充実のため多様な財源の確保を図る
- ・図書館のさらなる広報と利用促進を図る



「図書館蔵書で振り返る滋賀大学教育学部」展

入試

- 学部入試の現状
一般選抜では増減はあるが経済・DS学部は高倍率を維持、教育学部は減少傾向
特別選抜では受験生ニーズを踏まえた選抜（教育学部の学校推薦型、経済・DS学部の総合型）
- 大学院入試の現状
経済学研究科では経営分析学専攻の設置により受験者が増加
データサイエンス研究科は定員増を満たす入学者を確保

広報

- 取組
事前申込制によるOCの実施，近隣高校への学部説明会講師派遣



OC模擬講義

高大連携

- 取組
高大連携連続講座、大学・高校歓談会などの開催



OC個別相談会

- ★ 課題
入試ミスの防止，選抜方法とアドミッション・ポリシーとの適合性検証，ICTを活用した効果的な入試広報

■ 研究力強化に向けた制度を新設

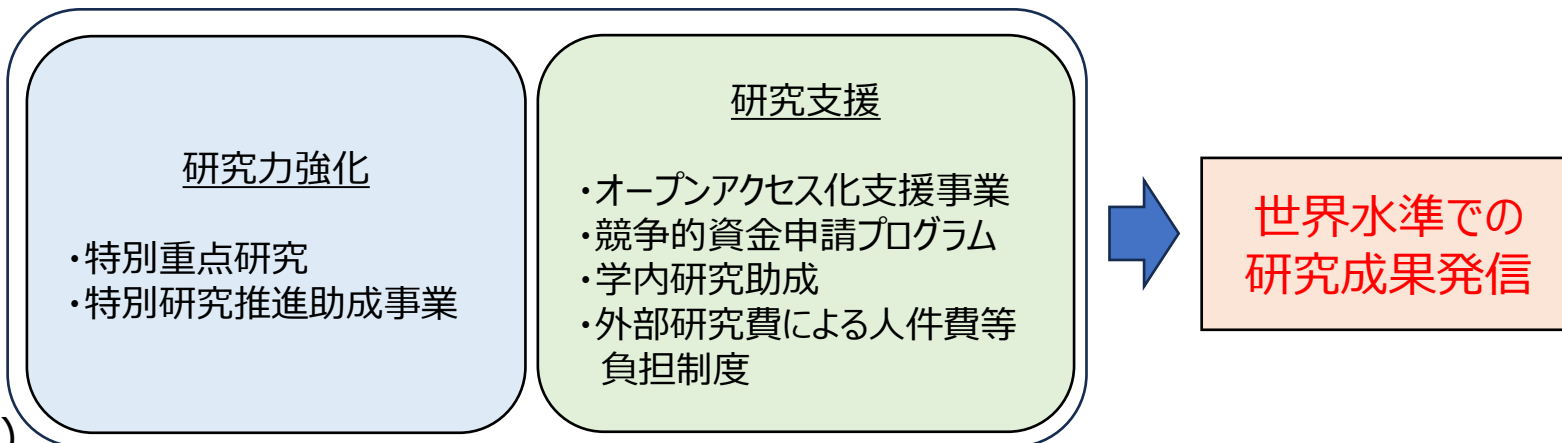
- 特別重点研究
 - ・ 第1号を認定
- 特別研究推進助成事業
 - ・ 4件の研究を採択

■ 研究支援

- オープンアクセス化支援事業（APC支援）
- 競争的資金申請支援プログラム（URAによる研究計画調書の添削・個別相談）
- 学内研究助成（未来創生プロジェクト助成／研究スタートアップ助成／研究ユニット助成 等）
- 外部研究費による人件費等負担制度（研究環境等改善費／バイアウト）

★ 研究における課題

- 世界水準での研究成果の発信
 - ・ インパクトファクター付き、もしくはSCOPUS掲載ジャーナルへの論文投稿（掲載）数の増加
 - ・ 国際的な共同研究等の増加
 - ・ 海外学会等での研究報告数の増加
- 研究成果の積極的な発信
 - ・ ホームページ上に「特色ある研究」を掲載



着実な国際交流の推進を目指して

協定校との交流

- ◇交換留学受入：每学期6名程度をコンスタントに受入れ
- ◇交換留学派遣：協定校へ11名を派遣
- ◇短期研修受入：ディーキン大学スタディツアー、チェンマイ・ラジャパット大学スタディツアー、マヒドン大学日本語研修等の受入れ
- ◇短期研修派遣：アメリカ語学研修、韓国語学・文化研修、イギリス研修、フランス語学・文化研修、オーストラリア研究、メキシコ語学・文化研修の実施
国際理解教育研修（教育学部主催）、シリコンバレー研修（経済学部主催）、タイ・スタディツアー（DS学部主催）等の実施支援



- ◆駐大阪韓国総領事が学長表敬訪問、特別授業（グローバルセミナー）を実施
- ◆ノッティンガム大学マレーシア校（マレーシア）、サウスイースト・ノルウェー大学（ノルウェー）との交換留学、今後の交流について情報交換

海外協定校の見直し・新規開拓

- ・テナガ・ナショナル大学（マレーシア）との学術交流協定の更新、学生交流協定の新規締結
- ・モンクット王工科大学ラートクラバン校（タイ）との学術交流協定の新規締結（予定）
- ◆英語圏の大学との協定を目指し、イギリスの大学と情報交換（レスター大学、ヨーク大学、キール大学他）



着実な国際交流の推進を目指して

学生の国際交流への関心や国際感覚の醸成

- ◇学生参画型の学内セミナー：グローバルセミナーを開催
 - ⇒ 学内外・国内外の講師（多種多様な分野）による対話型セミナー
- ◇協定機関であるCIEE京都からの留学生と本学学生、附属学校園児童・生徒等との交流
 - ⇒ キャンパスの更なる国際化を目指して実施
- ◇ミシガン日本センター（JCMU）の留学生と本学学生との言語交流の開催
 - ⇒ カジュアルな雰囲気からキャンパスの国際化を目指して
- ◇世界の一線で活躍した講師のリレー講義『国際文化システム特殊講義』の開講
 - ⇒ グローバルな現場での体験を共有し、異文化理解を深める
- ◇機構付き特任教員による英語での全学共通教養科目の開講
 - ⇒ 本学の英語での開講科目の充実 ⇒ 英語圏からの交換留学生受入増を目指す



戦略的、着実な国際交流の推進

- ◎滋賀大学「国際戦略」の策定（審議中）
- ◎本学学生に適した大学との交流の推進を目指す
- ◎英語による講義科目の増加等、教育カリキュラムの見直し
- ◎留学生受入の実質化（宿舎問題等）、キャンパスの国際化・留学生の多様化への対応



戦略的、着実な国際交流の推進を目指す

知の社会実装に向けた組織的な連携の強化

◇企業等との連携の更なる拡大
令和7年は新たに4件の連携協定を締結

◎県内企業との連携を一層強化

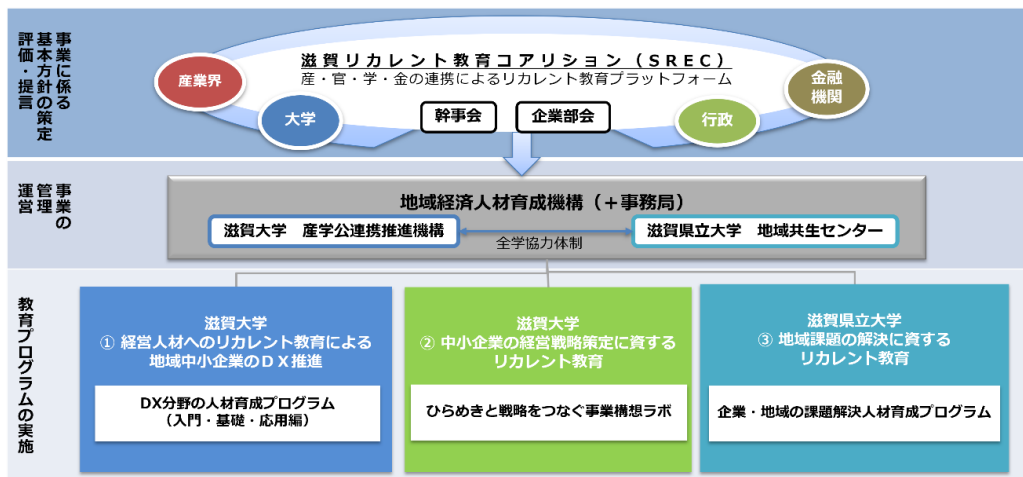


リカレント教育の推進

◇文部科学省「リカレント教育エコシステム構築支援事業」
(産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム構築支援) に採択

◎滋賀リカレント教育コアリション (SREC) を設置

- ・専門家人材をコーディネーターとして配置
- ・10月より5つの教育プログラムを実施



国際シンポジウム「CDOIQ-Japan」の開催

◇「ガバナンスに基づくAIとデータ・トランスフォーメーションの利活用
～次世代とともに進める地域創生～」をテーマに日本で初開催

12月4日 (木) @びわ湖大津プリンスホテル
特別講演・パネルディスカッション・レセプション
12月5日 (金) @滋賀大学彦根キャンパス
基調講演・参加企業によるプレゼンテーション

- ◎対面・オンラインを合わせて延べ450名以上が参加
- ◎専門的知見に基づく幅広い議論を展開



スタートアップ創出に向けた取り組み

◇滋賀大学発ベンチャーの認定
「株式会社Diveto」(データサイエンス学部卒業生
が設立)を第6号として認定

◇イニシアティブ棟内に「インキュベーションセンター」
を開設



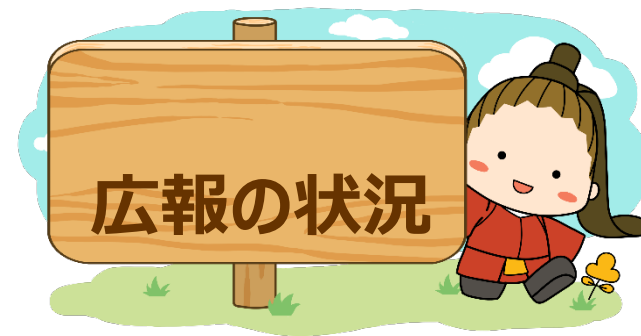
- コンセプト -

【 時代にチャレンジする滋賀大学チーム
学生や教員等などが活躍する姿 】



学生広報サポートチーム
大学公式ソーシャルメディア等

**滋賀大ブランド構築、 滋賀大ファン増大へ
受験生・産学公連携・寄附金等外部支援獲得**




記事件数	令和7年度	令和6年度
	12月末時点	12月末時点
大学ホームページ	512	457
新聞（含むネット）	295	247
テレビ	21	15
雑誌	23	32

topics

メディアでの滋賀大学の露出

- ・インターンシップ報告会や共同研究発表会など
学生の活躍する姿をプレスリリースで配信
- ・ホームページによる情報発信もメディア取材に
結びつため重要



第3期期首の1.1倍超 学生支援や教育研究に活用



滋賀大学基金

大学全般に係る寄附 (一般基金)

国際交流等の学生教育・学習支援、産学公連携の推進、研究活動の促進・高度化等

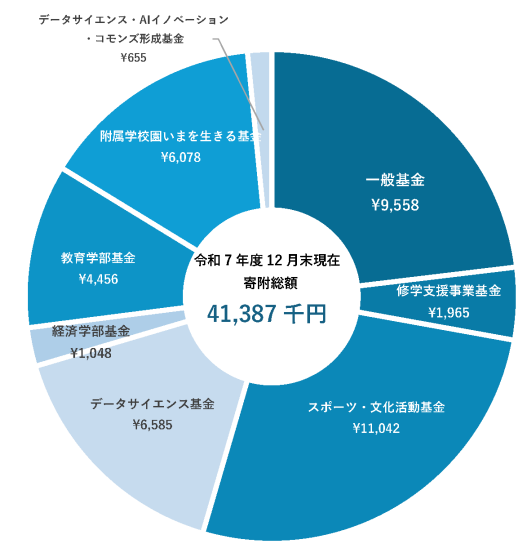
特定基金

修学支援事業基金	スポーツ文化活動基金	データサイエンス基金	経済学部基金	附属学校園いまを生きる基金	藤村泰子記念基金	データサイエンス・AIイノベーション・コモンズ基金	教育学部基金
----------	------------	------------	--------	---------------	----------	---------------------------	--------

滋賀大学基金 令和7年度基金別寄附額



単位：千円



1. 総務企画(教員人事関係を含む)

① 改革遂行のための組織・枠組みの検討

- (a) 経営改革室の設置
- (b) 経営人材育成強化のための取り組み
- (c) 3学系・センターと5機構による運営の強化
- (d) 多様性を基盤とする大学として

2. 目標計画進捗管理

① 目標計画進捗管理

- (a) 第4期中期目標計画の進捗管理と暫定評価に向けた取り組み
- (b) ガバナンスコード、内部質保証
- (c) 自己点検評価

② その他

- (a) 人権、コンプライアンス
- (b) リスク管理

第3期のイノベーション構想 教育:55 経済45 DS:30の人員シーリング(計130名) → 141
 削減進行中 高度情報専門人材育成事業 41を構想(増員分は授業料収入増加等で対応)

教育・経済学部機能確保・向上(教育・研究の質保証)
 全学的機構が担当する教育・研究支援の質確保・向上

他方で、財政的制約: 現在の経済環境・賃金上昇トレンド
 ⇒ 大きな人件費上昇圧力

現状 約170名の教員(外部資金での雇用者を除く)
 第三期イノベーション構想+の計画人員 141名

改革遂行のための人材活用の組織・枠組みの検討

①経営改革室による政策・戦略検討

☆ 外部アドバイザーを含むメンバーで、データサイエンスを軸とした大学機能強化の政策、戦略を検討、学長への提言

②経営人材育成

☆ 基本方針案を策定

☆ 若手を含むワーキンググループによる将来像の検討

☆ 若手職員の民間企業での経験研修・交流(トヨタ自動車「つながる活動」への派遣)

③3学系・センターと5機構による運営の強化

☆ 3学系+5機構+1センターによる運営の点検

④多様性を基盤とする大学として

☆ ダイバーシティ宣言策定

① 目標計画進捗管理

- ☆ 中期計画 進捗状況の点検 ⇒ 暫定評価報告(平成8年6月提出)に向けての点検と評価のための体制検討
- ☆ 教員個人評価 教員による自己点検報告書 提出率100%
- ☆ 自己点検評価報告会の充実に向けて 外部アドバイザーの参加
- ☆ 経営協議会・自己点検評価報告会などの機会にいただいた意見に対するフィードバックの枠組み整備

② ガバナンス・内部統制など

- ☆ ガバナンスコード適合状況報告、内部統制報告、内部質保証、監事監査意見書、といった諸機会での点検の着実な履行

その他

① 人権・コンプライアンス

- ☆ 人権委員会での事案対応
- ☆ ハラスメント研修会の実施

② リスク管理

- ☆ リスク管理体制の再確認(南海トラフ地震臨時情報)、安否確認システム導入の方針を確認
- ☆ リスク事象の定期的な状況確認と情報共有の枠組み整備

③ その他

- ☆ 統合報告書作成、IR活動

令和7年度学長裁量経費及び補助金について

学長裁量経費

基本理念

- 「令和4年度以降の予算編成の基本方針（令和4年3月18日役員会承認）」（抜粋）
 - ・第4期の中期目標・計画に盛り込んだ「未来創生大学」実現に向けて、本学が教育研究や社会との協働による社会変革の駆動的役割を十分果たしていく
 - ・学長のリーダーシップのもと、「未来創生大学」実現に向け、「ミッション実現戦略分」を含めた学長裁量経費を確保する。
- 学長の構想等を実現するための取組を推進する経費

財源及び配分方針

令和7年度予算：302,822千円

運営費交付金「ミッション実現戦略分」(31,679千円)
 基幹運営費交付金積算上の学長裁量経費(100,608千円)
 学内配分(300千円)、目的積立金(170,235千円)

ミッション実現戦略事業 約34,000千円

社会的なインパクトの創出につながる事業

- ・対象部局：中期目標・計画担当部局である主担当の学部・機構（3学部・5機構）

配分額：	1年度当り配分額	1学部当り(研究科含)	1機構当り
		7,000千円+a※	2,000千円

※別途、成果指標に基づく学部インセンティブを配分
 (令和7年度は1学部当り1,000千円程度)

- ・事業期間：6年間（期間中は上記配分額を基本的に継続して配分）
- ・対象事業：中期目標・計画に基づいた社会的なインパクトの創出につながる事業を対象
- ・要求方法：対象部局において「対象事業」に該当する6年間のロードマップを指定
 (令和5年度以降は、原則要求不要)
- ・採択後：毎年の進捗については、自己点検・評価WGにおいて、特色ある取組や優れた成果等の特記事項を含め、中期目標・計画の進捗管理をもって確認
 社会的インパクトについては、中間(4年目終了時)及び期末(6年間終了時)に国により評価され、第5期中期目標期間の配分に反映

戦略的プロジェクト 約99,000千円

①事業実施責任者の要求の中から学長が選定する事業

- ・要求者：事業実施責任者は部局長
- ・事業期間：1年(複数年にわたる支出が想定される経費には留意)
- ・対象事業：補助金や外部資金等の獲得に繋がる事業や戦略的取組事業を対象
- ・留意事項：1部局長当り1事業程度まで
 内容及び金額については厳選すること
- ・採択後の評価等：実績報告書に基づき確認

②学長自らが企画する事業

目的積立金事業 約170,235千円

戦略的教育研究機能強化事業

- ・データサイエンスみらい創造館新営事業(彦根)
- ・総合研究棟改修(石山)
- ・外部資金獲得促進経費



補助金等

財源	事業名等	R7予算額	事業期間
デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業	データサイエンス×経済・教育(DS×E2)高度専門人材養成プログラム	56百万円	R4~R9 総額約309百万円
国立大学経営改革促進事業	データサイエンス・AI領域を核とした学術研究×人材育成×産官学連携による社会変革を目指す経営改革事業	106百万円	R5~R8 総額約443百万円
大学・高専機能強化支援事業	未来創生のための価値創造の担い手=滋賀大学高度データサイエンス・AI専門人材育成機能強化事業	680百万円	R5~R14 総額約1,880百万円
地域教員希望枠を活用した教員養成大学・学部の機能強化事業	教育データサイエンス / ICT / DX活用による地域教育の転換と地域教員マインドの醸成	15百万円	R6~R10 総額約66百万円
人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業	データ×アーツ×国際連携による新たな総合知に基づくビジネス・インサイト養成プログラム	40百万円	R6~R11 総額約200百万円
リカレント教育エコシステム構築支援事業	滋賀リカレント教育コアリションの構築を通じた県内企業の人材育成の推進による地域経済の活性化	39百万円	
将来の国際会議主催育成のための地域・大学連携等促進事業	CDOIQ-Japan 開催事業	8百万円	

令和8年度運営費交付金の概算要求等について

令和7年度予算

令和8年度予算

〔ミッション実現加速化経費〕

教育研究組織改革分	【組織整備】 178,567千円 「データサイエンス・AI領域を核とした先進的教育研究拠点 (データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター) の形成」 (継続：日本人教員4名、事業推進費(URA2名相当含)) 73,700千円 (拡充：日本人教員1名、事業推進費(URA1名相当含)) 32,975千円 全学的戦略経費 9,892千円
	【組織整備関連プロジェクト】 「『データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター』に おける、デジタル社会変革教育研究プロジェクト」 (継続：プロジェクト経費) 50,000千円 (拡充：プロジェクト経費) 12,000千円

実現戦略分	各法人が社会的なインパクトを創出するために効果的な取組を分析し、 その戦略的な強化に取組むことを後押しするための必要な経費 31,679千円
-------	--

その他	附属学校機能強化分 学校支援人材の配置等による機能強化に必要な経費 5,987千円
-----	--

共通政策課題分	数理・データサイエンス・AI教育強化分 「未来社会牽引DSエキスパート人材拠点形成」事業(拠点校) 66,500千円
	基盤的設備等整備分 情報基盤システム(リース費用相当分) 19,212千円

〔ミッション実現加速化経費〕

教育研究組織改革分	【組織整備】 178,567千円 「データサイエンス・AI領域を核とした先進的教育研究拠点 (データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター) の形成」 (継続)・日本人教員5名、事業推進費(URA3名相当含)、全学的戦略経費 116,567千円
	【組織整備関連プロジェクト】 「『データサイエンス・AIイノベーション研究推進センター』に おける、デジタル社会変革教育研究プロジェクト」 (継続：プロジェクト経費) 62,000千円

実現戦略分	※本経費は、第4期中期目標期間中、原則令和4年度の予算額で固定 31,679千円
-------	---

活動充実分	(新規) 基礎研究の充実 24,478千円 基礎研究の充実等に資する取組を実施するために必要な経費として文部 科学省により新たに予算措置
-------	---

その他	附属学校機能強化分 学校支援人材の配置等による機能強化に必要な経費 5,987千円
-----	--

共通政策課題分	数理・データサイエンス・AI教育強化分 「未来社会牽引DSエキスパート人材拠点形成」事業(拠点校) → 基幹経費化 60,000千円
	基盤的設備等整備分 情報基盤システム(リース費用相当分) 34,925千円

下記について、文科省による新たな事項要求のうえ、予算措置
 ・文部科学省共済組合事業主負担対応分(基幹経費) 21,588千円
 負担率の改定による事業主負担分の増への対応に必要な経費

令和7年度における施設整備等について

I 令和7年度の進捗状況と点検・評価

①適切な施設の維持管理

- (彦根) 福利施設トイレ改修
- (彦根) 附属史料館LED改修
- (彦根・石山) 保健管理センター防音対策

②教育・研究環境の整備

- (石山) 人文・社会・教育棟改修 (I期) 【令和8年3月完成予定】
- (膳所) 基幹環境整備 (空調設備) 【令和8年9月完成予定】
- (膳所) 基幹環境整備 (電気設備) 【令和8年9月完成予定】
- (彦根) データサイエンスみらい創造館新営 【令和8年8月完成予定】
- (石山) 人文・社会教育棟改修 (II期) 【令和8年度実施予定】
- (彦根) 基幹環境整備 (受変電設備) 【令和8年度実施予定】

③施設の有効活用 (講義室の稼働率) 令和7年度 50%

④省エネルギーの推進 (LED化の推進) 令和7年度 64%

(彦根) 福利施設トイレ改修



[施工前]



[施工完了]



(石山) 人文・社会教育改修 (I期)

[施工前]



(彦根) データサイエンスみらい創造館棟新営

【令和8年8月完成予定】

II 令和8年度以降に向けての課題と取組

施設整備費補助金等を活用し、老朽化した施設の改修を進めているものの、施設・設備の不具合や各部局からの工事要望が非常に多く、すべてに対応することは困難な状況です。

このため、キャンパスマスタープランを見直し、施設整備の進捗状況を確認するとともに、施設・設備の老朽化の実態を的確に把握し、中期的な維持・補修計画を策定する必要があります。

これまで施設の維持補修は、不具合発生後の事後対応が中心でしたが、安心・安全なキャンパス環境を構築するためには、事後対応から予防保全への維持管理手法への転換が求められています。

また、衛生設備については、附属学校および大学において和式トイレのみの建物が残っているため、多様な利用者に配慮した環境改善を早急に進める必要があります。

照明設備については、大規模改修時にLED照明器具への更新を進めてきましたが、現在のLED化達成率は64%にとどまっています。

既存蛍光灯ランプについては、水俣条約に基づき、一般照明用蛍光灯の製造および輸出入が2027年度末で廃止されることが決定しているため、計画的にLED照明への更新を進めることが不可欠です。

以上のことから、限られた予算を有効かつ効果的に活用し、持続可能な施設整備を推進することが重要です。

さらに、令和8年4月からは、施設の有効活用を図り、新たな財源確保を通じて本学の教育環境の向上に資するため、ネーミングライツ事業にも積極的に取り組みます。

ネーミングライツ事業



ただいま休憩中です



<https://forms.cloud.microsoft/r/8eXFjmAipz?origin=lprLink>

本日の自己点検・評価報告会について、アンケートを実施しております。

今後の報告会の運営にあたっての参考とさせていただくため、率直なご意見・ご感想などをお寄せ下さい。

画面左側のQRコード、URLからご回答をお願いいたします。

有効回答期間：2月27日（金）12時00分～3月3日（火）12時00分

◇ チームの概要

- ・ 清水昌平 卓越教授を中心とした横断型研究チーム
- ・ 因果AI × 予防統合科学を軸に、基盤理論～応用・社会実装まで推進

◇ 主な研究テーマ

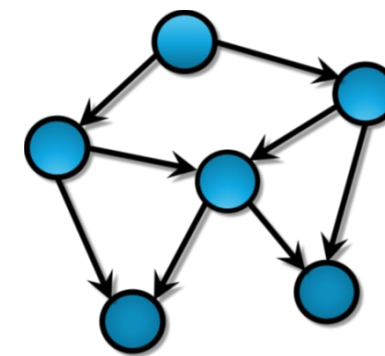
- ・ 因果探索、因果デジタルツイン、生成AIと因果推論
- ・ 医療・創薬・材料・社会科学などへの応用
- ・ 因果に基づく意思決定社会の実現

◇ チームの活動

- ・ 2025年12月1日 キックオフシンポジウム、対面・オンラインで200名超が参加
- ・ 2026年1月29-30日 第1回因果フォーラム

チームの構成員によるこれまでの代表的な研究成果

- ① JST CREST：LLMの知識を因果探索に統合する新手法
Transactions on Machine Learning Research (2025)
- ② 東芝との共同研究：時系列予測誤差の原因特定手法
IJCNN 2025 発表
- ③ 富士通との共同研究：異なる変数集合を持つ複数データの因果統合推定
AAAI 2026 発表予定



Causal Discovery



先端因果推論特別研究チームキックオフシンポジウム

◇ 滋賀大学・日東電工デジタルイノベーション研究センター（NSIC）

【取組】

データサイエンスの課題解決に向け、4分野(画像解析、材料解析、統計解析、データ整備)での共同研究において、社会実装を見据えた価値創造活動を推進。

◇ 日本セーフティソサイエティ研究センター（JSSRC）

【取組】

日本セーフティソサイエティ研究センターは、テレマティクスデータを基に車両走行中の危険兆候の分析と予測などを推進

【主な成果】

① HPCC2025

: Best Paper Award 受賞

② DPSWS2025

: 交通事故危険性を体験するデモ出展を行い、優秀デモンストレーション賞を受賞



また、彦根で開催した国民スポーツ大会2025の開会期間中の交通状況を事前にシミュレーションを用いて予測し、交通整理の参考情報としてあいおいニッセイ同和損保滋賀支社を通して滋賀県警に連携した。当手法は特許申請中。

◇ 生成AI教材に係る書籍の共同執筆

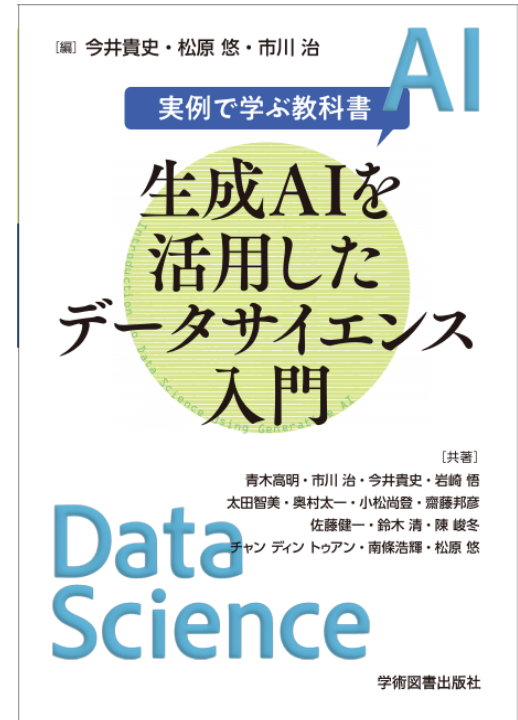
- ・ 文系学生への基盤的データサイエンス教育を支える教材整備の推進を目的に、「実例で学ぶ教科書 生成AIを活用したデータサイエンス入門」を教員グループで執筆（2026年3月発刊予定）

◇ 高校生の学習動機を探る調査研究

- ・ AI戦略2019が掲げる現代版の読み書きそろばんとしての教育理念の具現化を目的に、文系を含む幅広い学習者への学びの意義を可視化する取り組み、「なぜデータサイエンスを学ぶのか」という疑問に応える答えを導き出す調査（インタビュー、大規模アンケート）の実施

◇ 近畿ブロックFDによる三つのシンポジウム開催

- ・ 大阪成蹊大学・滋賀大学・兵庫県立大学共催「三大学データサイエンスシンポジウム」研究発表と「生成AIによって変わる教育」をテーマとしたパネルディスカッションを実施し約60名が参加
- ・ 先端因果推論特別研究チームキックオフシンポジウム
AI for Science、Science for AI を合言葉に、対面・オンライン200名超が活発な議論
- ・ データサイエンス×経済・教育（DS×E2）高度専門人材養成シンポジウム（3月開催予定）



◇ Data Engineering and Machine Learning (DEML) センター

共同研究員を卒業生・博士にまで拡大、好循環システムの構築による共同研究体制の充実

2024年度 体制

研究員
12名

研究支援者
30名

所属	人数
博士課程	1名
修士課程	13名
学士課程	14名
学外研究員 (卒業生)	2名

2025年度 体制

研究員
16名

研究支援者
35名

所属	人数
博士課程	1名
修士課程	22名
学士課程	10名
学外研究員 (卒業生)	2名



◇ 共同研究による特許出願数

年度	件数	備考
2021年度	1件	あいおいニッセイ同和損保（笛田）
2022年度	1件	タキイ種苗（飯山）
2023年度	0件	－
2024年度	4件	A社（ファム）、B社（高柳） C社（大平）、D社（青木）
2025年度	9件	A社（清水・前田）、B社（笛田・岩山）、C社（今井）、D社（笛田）、E社（笛田・来嶋）、 F社（今井・河本）、G社（松井・松島・福井）、H社（ファム） ^{*1} 、 単独（義久・池之上・堀）

その他 I社 利用許諾契約（プログラム）

* 1 2024年度出願の外国出願分

◇ 特許事務所との提携

これまでは個人アドバイザーに委託していたが、幅広い知財案件によりスピーディーに対応できるよう、実績のある特許事務所と新たに契約を締結。

【2025年度の実績】

- ① 発明者の該否について難航していた相手企業との協議の解決
- ② 本学単独出願特許についての的確な支援

◇オンライン教育で広がる滋賀大学のデータサイエンス発信力

犯罪統計をテーマとする国際シンポジウムを2回開催。1回目のシンポジウムでは問題解決型警察活動と、EBPM先進国である英国のエビデンス構築・普及の仕組みや実務家育成について、2回目のシンポジウムでは犯罪集中の理論的基盤や、日本の警察におけるAI等先端技術の導入に向けた取組みなどをテーマに実務家が参加、盛んな質疑が交わされた。

① 《2025年7月3日》国際シンポジウム

講演者：Aiden Sidebottom 准教授

英国ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン
安全・犯罪科学部准教授) 他

題目：「エビデンスに基づく警察活動」

② 《2025年11月27日》国際シンポジウム

講演者：David Weisburd 教授

米国ジョージ・メソン大学

題目：「犯罪の空間分析と予測」

滋賀大学国際シンポジウム
エビデンスに基づく警察活動
-英国における研究者と実務家の協働から-

7月3日(木) 13:00-14:30 講堂ホール

18:00-18:15 受付・開会挨拶
18:15-18:40 懇話会(懇話会費)
■対象: 限定なし(申込不要)
■開催: 対面 + WEB
■言語: 英語(日本語解説付き)

講演者: Aiden Sidebottom (University College London)
同時開催: 14:45-16:40 国際犯罪学実務家からの講演会
会場: 滋賀大学 講堂(16/25席)
申し込み: takami@iwako-shiga-u.ac.jp



○対面・オンラインあわせて最大約179名参加

滋賀大学国際シンポジウム
International Symposium
11月27日(木) 13-17時
POLICE
on Spatial Crime Analysis and Prediction
-from Theory to Practice-

講演者: David Weisburd (George Mason University)
会場: 土曜朝倉3F セミナー室 I (対面 + ZOOM併用)
対象: 学生、教職員



○対面・オンラインあわせて最大約71名参加

教育活動

Society5.0時代の教員養成構想

地域教員養成プログラム

北部地域教育体験

入試改革／高大連携

シンポジウム（滋賀県教育委員会共催）

研究活動

地域・附属学校園と連携した教育実践研究

データサイエンスを活用した教育実践研究

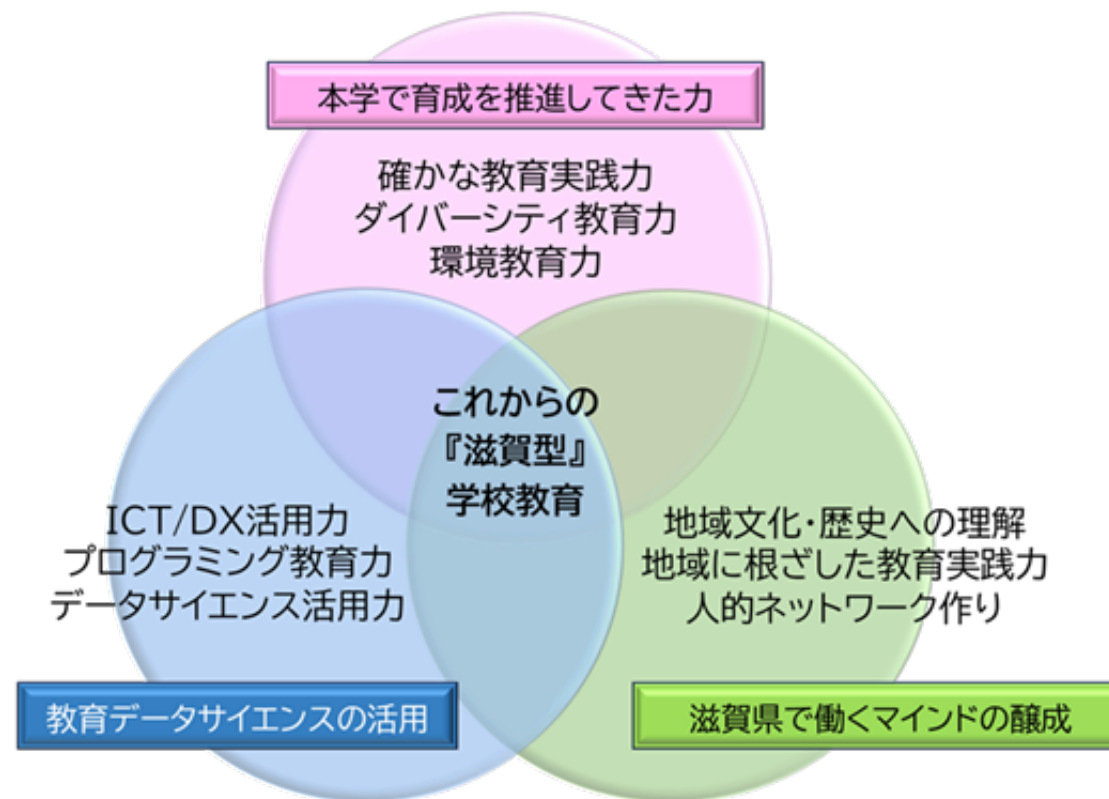
学生支援

就職支援の強化

学生用スペースの整備

教育学部創立150周年事業

外部評価



組織・体制

研究者教員と実務家教員の協働による教育体制
兵庫教育大学連合大学院への参画

教育・研究

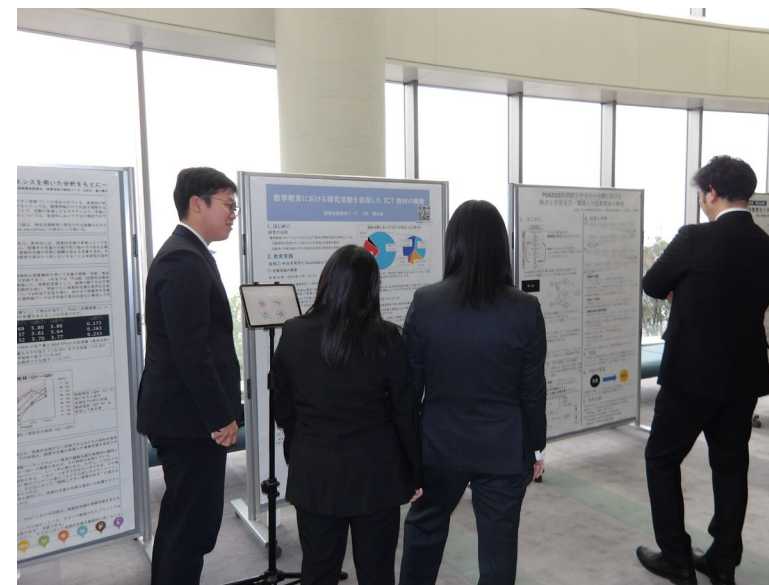
教育データサイエンス人材育成プログラム
課題解決研究の推進
データサイエンス研究科教員による指導体制
附属教育データサイエンス実践センターとの連携
滋賀県教育委員会との連携
研究成果の発信

国際交流

海外連携校実習

評価

認証評価受審



附属学校園 教育実践・実践研究の拠点

学部・研究科と連携した教育実践研究

先導的・実験的教育研究実践

ICTを活用した学校間連携と国際交流

教育実習・教育体験・学習支援ボランティア

附属小学校創立150周年事業

「全国学校・園庭ビオトープ 日本生態系協会会長賞」等の受賞



教育実践総合センター 学生支援と地域連携

学生支援：教育実習支援、就職・キャリア教育支援

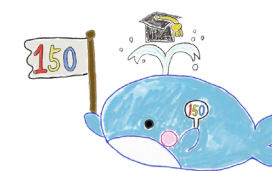
地域連携：共同研究事業、石山プロジェクト、出前講義、高大連携事業

音楽教育支援センター 音楽分野における専門支援と社会連携

アウトリーチ事業、インリーチ事業、指導者研修、パイロットプログラム

文化庁事業等外部資金による自走

学部・教職大学院授業での活用



教育・体制

学部・教職大学院・連合大学院の一体的な運営

Society5.0時代の教員養成構想に基づく教育プログラムの充実

教育学部「地域教員養成プログラム」

教職大学院「教育データサイエンス人材育成プログラム」

附属学校園改組と運営体制の検討

研究活動

地域が求める教育課題に対応した共同研究の継続

附属学校園との連携研究成果の蓄積と活用

研究成果の教員養成カリキュラムへの反映

学生支援

教師インターンシップの検証と充実

教職志望学生への段階的・継続的な支援の強化

I 令和7年度の進捗状況と点検・評価

① 教育内容と実施体制

(a) 専攻決定 (レイトスペシャライゼーション)

(b) 学部専門共通科目

▶「コアAB科目成績優秀者表彰」部門を新設。

(c) 経済学部におけるデータサイエンス教育

▶「データサイエンス・コースのつどい」

▶MDASH「応用基礎レベル」の科目構成の再検討。

▶17の専門演習 (ゼミ) で、データサイエンス教育を実施。



(d) グローバル人材育成

▶コース生のための特別な授業、**JCMUとの交流**

▶「グローバルリーダー育成 陵水奨学金」、経済学部学術後援基金「海外研修助成」



(e) 地域連携教育

▶彦根市内の長谷川林材(株)の協力で「**地域課題プロジェクト**」による**展示会**を実施。



(f) 「専門演習」の多様な実践 「専門演習 I」47ゼミ、「専門演習 II」48ゼミ (1ゼミ、平均9.7~9.9名)

▶金乗基ゼミ ゼミ生19名でラオスを訪問し、現地交流を通じて、経済発展や国際協力の本質を考える。統計やRなども修得。

▶山下悠ゼミ 「Student Innovation College2025」32大学40ゼミ526名、161チームが登録。20チーム中、部門1位を獲得。吉田秀雄記念事業財団賞も受賞。

▶松下京平ゼミ 2025年11月12日、20th International Network for Water and Ecosystem in Paddy Fields に参加。
(第20回国際水田・水環境ネットワーク、滋賀県大津市にて開催)

	合計	経済専攻	経営専攻	社会システム専攻
2023入学生	460	73 (15.9%)	256 (55.7%)	131 (28.5%)
2024入学生	493	88 (17.8%)	259 (52.5%)	146 (29.6%)

(e) 資格取得等報奨制度

I 令和7年度の進捗状況と点検・評価

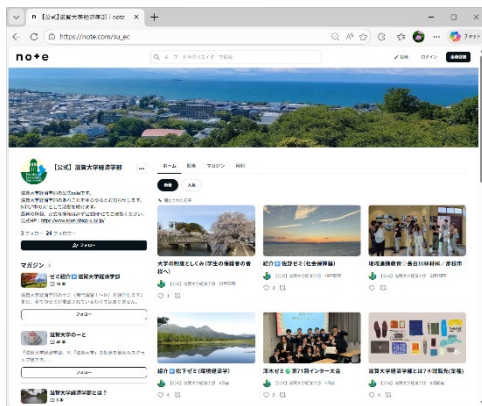
② 入学者選抜と広報活動

(a) 令和7年度入試（2025入学）

- ▶定員 前期日程 172名→164名 (8名▲)
後期日程 150名→140名 (10名▲)
総合型選抜 18名→30名 (12名+)
社会人選抜（新設）6名
夜間主コース 募集廃止

(b) 入試広報

- ▶オープンキャンパス（彦根）約3,200名来訪
- ▶高校訪問、大学見学
- ▶経済学部ホームページのリニューアル、note新設



2024入学	定員	志願者	志願倍率	受験者	合格者	入学者
総合型選抜	18名	27名		24名	24名	24名
学校推薦型選抜	A 40名 B 20名	83名 52名	2.1倍 2.6倍	83名 52名	40名 21名	40名 21名
一般選抜	322名	2476名		1313名	392名	327名
前期・国外	86名	349名	4.1倍	301名	101名	91名
前期・数外	86名	354名	4.1倍	309名	99名	84名
後期・国外	75名	742名	9.9倍	308名	94名	79名
後期・数外	75名	1031名	13.7倍	395名	98名	73名
私費留学生	10名	24名	2.4倍	21名	15名	12名
夜間主コース	50名	344名		343名	91名	58名

2025入学	定員	志願者	志願倍率	受験者	合格者	入学者
総合型選抜	30名	39名	1.3倍	39名	30名	30名
学校推薦型選抜	A 40名 B 20名	113名 41名	2.8倍 2.1倍	113名 41名	41名 22名	41名 22名
一般選抜	304名	2422名		1445名	392名	317名
前期・国外	82名	558名	6.8倍	498名	99名	78名
前期・数外	82名	307名	3.7倍	279名	97名	84名
後期・国外	70名	693名	9.9倍	320名	95名	74名
後期・数外	70名	864名	12.7倍	348名	101名	81名
私費留学生	10名	26名	2.6倍	25名	13名	11名
社会人選抜	6名	1名	0.2倍	1名	0名	0名

I 令和7年度の進捗状況と点検・評価

③ 研究にかかわる取組

- (a) 研究成果の公表
- (b) 論文報奨金制度 ▶ 査読論文10件が対象に。
- (c) 国際カンファレンス開催 ▶ Macro Finance分野、3回目
- (d) 公開講座等



公開講座 「デザイン思考とマーケティング —新しいビジネスを作ろう!」「わくわくテニス教室」ほか
 公開授業 「アントレプレナーシップI —ゲームチェンジャーになるために」「近江商人論 —多様な商人とその活動」
 「オペレーションズ・リサーチ —問題解決や最適化の数学」
 「線形代数への招待 —データ分析のための行列の計算と応用」
 「古文書解読A1 —江戸時代の古文書に親しむ」 ほか

▶ **小林文彦客員教授（伊藤忠商事）による特別講演「企業の競争戦略と『三方よし』」**

- (e) 社会貢献活動
- (f) **未来創生人材育成講座**

さまざまな専門分野の教員による話題提供・受講者等との議論

⇔ ゲストスピーカー（講座受講者）による話題提供・学生との議論

「『日本における製造業の未来創生を考える』をテーマに学生の発想転換を促す」

II 令和8年度以降に向けての課題と取組

- ・ 3ポリシー（DP、CP、AP）の改定
- ・ 新カリキュラムの編成
- ・ 第5期中期目標・中期計画の策定に向けた準備

未来創生人材育成講座の
1期生による集中講義「プロジェクトA」



滋賀大学講演会
2025年12月8日(月)

**企業の競争戦略と
「三方よし」**



ひとりの商人、無数の使命

伊藤忠商事株式会社
代表取締役 副社長執行役員 CAO
小林 文彦

© 2025 ITOCHU Corporation CAO Office



I 令和7年度の進捗状況と点検・評価

- ・入学者選抜
- ・5年一貫教育プログラム 令和7年度は3名が入学
- ・台中科技大学商学院とのダブルディグリー・プログラムの締結

▶ 「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業」 = MBAN（経営分析学専攻）

広報活動（企業訪問32件等） 9名入学（定員6名）
DX総合エキスポ2025夏にて特別講演

公開シンポジウム「データサイエンス×経済・教育（DS×E2）高度専門人材養成プログラム」

2026年3月9日(月) 大津・琵琶湖ホテル

▶ 「データ×アーツ×国際連携による新たな総合知に基づくビジネス・インサイト養成プログラム」

英語科目の新設

海外研修Ⅰ（台湾、9月） 6名参加

海外研修Ⅱ（シリコンバレー、8月） 14名参加

	定員	2024 志願者	2024 入学者	2025 志願者	2025 入学者
博士前期課程	32名	61名	29名	49名	28名
5年一貫プログラム		1名	1名	3名	3名
台中科技DD		2名	2名	0名	0名
東北財経5.5年一貫連携		1名	1名	0名	0名
博士後期課程	3名	3名	2名	3名	3名

DX総合エキスポ2025夏 東京
特別講演「データ主導の企業経営に向けて
～滋賀大学が推進する産学連携～」



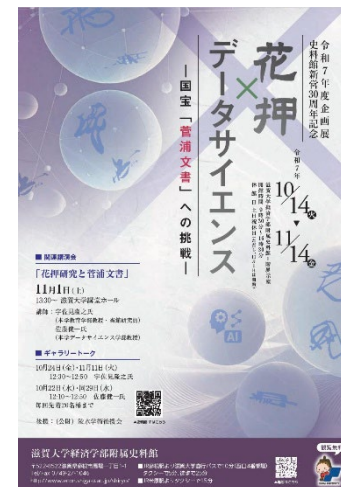
II 令和8年度以降に向けての課題と取組

- ・入学者数は定員に近い水準まで回復。内部進学者や派遣企業への広報活動の継続の必要。
- ・大学院入試制度改革の結果の点検。
- ・MBAN経営分析学専攻を意識した、安定した開講体制の確保の検討。
- ・大学院における国際交流・英語教育の今後（助成期間終了後に向けた検討）
- ・専門分野による業務負担の偏在問題



A. 附属史料館

- ① 近江商人・近江系企業の史資料をはじめとする収蔵史資料の調査・研究
伊藤忠兵衛家関連資料群／伊藤忠商事史資料／丸紅株式会社史資料／滋賀銀行資料
- ② **附属史料館における史資料の収集と公開、研究成果の発信**
令和7年度春季展示「史—史料館75年のあゆみ—」
夏季ミニ展示「館蔵野瀬正雄氏引札コレクション—絵ビラから見える明治期の彦根—」
「花押×データサイエンス —国宝「菅浦文書」への挑戦—」
『附属史料館研究紀要』第58号、収蔵資料目録第77集「仲屋町元共有文書目録」の刊行
- ③ 県内外の研究・教育機関および各自治体との連携に基づく史資料の活用と地域貢献
滋賀県立安土城考古博物館、米原市柏原宿歴史館による特別利用
愛荘町、日野町、彦根城博物館との間での情報提供・相談・調査等
- ④ 学術貢献 学士5名、修士3名、博士2名の学位論文執筆に協力／学内外の研究者の訪問・史料閲覧・史料利用に対するサポート
- ⑤ 外部資金獲得の取組 基金創設



〈令和8年度以降に向けての課題と取組〉

- ① (公財)豊郷済美会の助成による伊藤忠兵衛家文書目録の完成させる。
滋賀銀行寄付金により人員を雇用し、滋賀銀行資料の整理を進捗させる。
- ② 国宝「菅浦文書」に関する共同研究への協力
- ③ 史資料の新規収集、通じた収蔵史資料の公開、『研究紀要』の刊行、客員研究員制度や外部資金を利用した人員確保等
- ④ 滋賀県関係史資料の保全・継承
- ⑤ **外部資金を活用した史料館の研究事業をリードする人材の確保**
- ⑥ マスコミ取材対応、『にゅうすSAM』の年2回発行、「湖国文化情報『れいかる』」での広報 ⇒ 地域における博物館相当施設としての存在感



B. 経済経営研究所

研究の推進と成果の公開 ⇒ 教育への還元、社会の発展への貢献

- ① **リスク研究部門** ジョイントセミナー3回 岩井睦雄氏（日本たばこ産業(株)取締役会長）講演・対談(4/10)
- ② **先端研究部門** 先端研究セミナー4回 ラウンジセッション
- ③ **未来社会研究部門** 未来パラダイム研究「放課後あそび場プロジェクト」13回
2026年度は三菱UFJ銀行からの寄附による支援を受けて実施

講演会6回

国際シンポジウム「帝国日本の専門教育—高等商業学校と女子師範学校を中心に—」

客員研究員ワークショップ(12/11) ポスターセッション

研究成果の公開 ディスカッション・ペーパー 英語版6冊、日本語2冊
ワーキング・ペーパー 5冊
『彦根論叢』444号～446号
『滋賀大学経済学部研究年報』32巻

滋賀大資料展示コーナー（藤田昌宏教授・教育学部）

第1期：ヒトガタと戯れ／第2期：G.C.P.の戯れ／第3期：マイペンライで戯れ
チェンマイ・ラチャパット大学の短期研修による観覧

英文校閲費補助制度、論文報奨金制度、広報活動補助
各種の研究助成制度

夏季休暇学生懸賞論文 DS研究科院生も応募・受賞

〈令和8年度以降に向けての課題と取組〉

- ・研究支援、研究成果の学生・卒業生へのさらなる還元
- ・所蔵史資料の管理体制の見直し協議



学長・岩井氏・深谷センター長の対談



講演会



客員研究員ワークショップ



滋賀大資料展示コーナーを紹介する
経済経営研究所公式Youtube



セミナー前後のラウンジセッション

「超生産性」の時代

- 生成AIの登場によって個人の生産性が最大化
- 簡単な分析作業は生成AIにお願いできるようになり、データサイエンティストは「価値創造」に回帰
- アプリケーションの自動作成とオートメーションによって、現場レベルのDX（業務改革）が可能に

➡ **価値創造** と **実践力** にフォーカス

データサイエンス人材育成の目標シフト：

- 一般的なAIや生成AIを設計・構築する人材
- **生成AIを上手に活用して社会問題を迅速に解決していく人材**
- 統計数学に裏付けされた高度な分析力のある人材
- 多様なデータを扱える人材（金融，流通，政府・自治体，SNS，化学，気象，サービス，音楽，画像，音声，アート，ゲーム，スポーツ，医療，テレマティクス，介護，人事，人的ネットワーク，防犯，農業，等）
- 次世代のAIを担う人材（AIEージェント，フィジカルAI）

施策：

- ビジネスデータサイエンティスト系ゼミを3ゼミに拡充（R8年度 3年生の3割） **価値創造** と **実践力**
- 生成AIの活用にフォーカスする講義を2つ新規に開講（R8年度）

来年度：新しい講義の開設

生成AIによるデータ分析（仮）

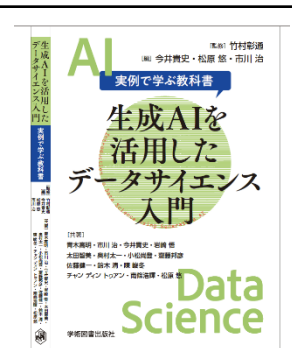
全学共通教養科目

生成AIを用いてデータサイエンスを一通り体験します。この講義のために新規出版される教科書では、毎回、「中古不動産はいくらで売れるか？」といった実践的な問題分析のテーマが設定されており、そのテーマのデータを生成AIによるプロンプトのみで処理していきます。生成AIはバックグラウンドでプログラミングを自動で行い実行します。回帰分析などのデータサイエンスの基本的な技術は、このテーマ分析を進める過程で自然に学ぶことができます。

生成AI活用演習（仮）

DS専門科目

近年、アプリケーションを自動で作成してくれる生成AIツールが登場しています。生成AIとの対話を通じて仕様を明確化し、最終成果物を作成していくプロセスを学びます。また、この演習講義では処理を自動化するRPA(ロボットプロセスオートメーション)も学びます。一連のワークフローを生成AIの力を借りながら作成していきます。

教科書
(仮表紙)

学生に提供する生成AIツール

ChatGPT Edu (Open AI)
Copilot Chat 365 (Microsoft)
PLaMo (PFN) (予定)

学生にとってのメリット

上記科目を履修することで、3年生の夏のインターンシップの頃には、「派遣先企業における具体的な課題を即座に解決できる」人材になっていることを目指します。これにより、就活でのアピール力が向上します。

令和7年度の実績

- 生成AIの導入と教育・研究への活用：**生成AI時代の教育に向けた一歩**
 - ChatGPT Eduの導入⇒院生・教員が利用可能に
 - 研究科院生の7割以上が「**ほぼ毎日**」「**毎日**」ChatGPT Eduを活用。11万プロンプト/月
 - 大学院講義での活用、ゼミでの研究活動での活用も進む

- カリキュラムの点検・見直し **昨今のデータサイエンス分野の進展に対応**
 - **背景:** 生成AI・AIエージェントの時代が到来、学生のバックグラウンド・興味・入学目的も多様化
 - 令和7年度の実績：
 - カリキュラムポリシー改定：「AIイノベーション科目群」
 - 従来の「修士論文」に加え「**特定課題研究**」を修士学位論文として選択可能に
 - R8年度カリキュラム改定の準備。一部科目は先行して実施「**機械学習と生成AIによるビジネスデータサイエンス**」
 - 博士後期課程：「**早期修了プログラム**」の運用開始

- 学習支援体制の強化
 - 「**DS研究科教育サポート**」：数学・プログラミングの質問窓口、研究相談
 - プレマスター教育教材の充実

- 広報活動
 - Webサイトを充実、学内外向けの大学院説明会の開催、企業訪問

令和8年度以降の課題と取り組み

- カリキュラムを充実させます。一気に5(+1)科目を新規開講
 - 最新のAIを学ぶ講義：「**深層学習特論**」「**機械学習と生成AIによるビジネスデータサイエンス**」⇒「E資格」対応も見据える
 - 高度な統計学を学ぶ講義 & 統計学の基礎を固める講義：「**統計学特論**」、**統計学の自主ゼミ**
 - 社会調査系科目の充実：「**社会調査論**」「**社会調査実践論**」

- 「**生成AI・AIIエージェント時代の教育**」に向けて
 - 生成AIを単なるツールとしてではなく、知的創造活動の「相棒」として使いこなす能力を身につけられる講義内容に

- 「**データサイエンスみらい創造館**」の活用
 - 令和8年10月より供用開始
 - 知の交流と共創を生み出すハブとして、イベント開催などを企画していく

- 大学院生の研究活動を経済的に支援する仕組みの模索
 - 背景：（いわゆる）理系の研究室はPIが獲得した外部資金で研究、院生もその一部の担当して論文発表・国際会議発表
 - 常に潤沢な資金があるわけではなく、学生の国際的活躍の機会が資金の有無により制限されてしまう
 - 非常に実現は困難であるが、国の新たな研究支援策の動向を注視しつつ、具体的な支援策を模索



<https://forms.cloud.microsoft/r/8eXFjmAipz?origin=lprLink>

本日の自己点検・評価報告会について、アンケートを実施しております。

今後の報告会の運営にあたっての参考とさせていただくため、率直なご意見・ご感想などをお寄せ下さい。

画面左側のQRコード、URLからご回答をお願いいたします。

有効回答期間：2月27日（金）12時00分～3月3日（火）12時00分



SHIGA UNIVERSITY